

ロンドン、2018年11月21日

中国の承德鋼鉄から連続亜鉛めっきラインと酸洗ラインを受注

- 新設される冷間圧延・プロセス工場に連続亜鉛めっきライン（CGL）と連続酸洗ライン（CPL）を納入
- CGLは厚さ6mmまでの冷延鋼板を年間41万トン処理
- CPLは厚さ8mmまでの冷延鋼板を年間100万トン処理
- 両ラインとも厚鋼板を処理可能

プライメタルズテクノロジーズ（Primetals Technologies）は、中国の鉄鋼メーカーである承德鋼鉄バナジウム・チタニウム冷間圧延鋼板有限公司（Chengde Steel Vanadium Titanium cold-rolled sheets Co, Ltd.：承德鋼鉄）から、河北省承德市に新設中の冷間圧延・プロセス工場向け連続亜鉛めっきライン（CGL）と連続酸洗ライン（CPL）を受注しました。CGLは冷延鋼板の年間処理量41万トン、CPLは年間処理量100万トンで設計されており、両ラインとも厚鋼板の処理が可能です。加工された鋼板は建材、建設、自動車向けとして使用されます。亜鉛めっきコイルと酸洗コイルの生産開始は2019年第3四半期の予定です。

承德鋼鉄は中国最大手の鉄鋼メーカーであるHBISグループの一員であり、2016年の年産量は4,600万トンです。承德市双滦区にある新しい冷間圧延総合工場は、冷延コイル、焼鈍コイル、原板（フルハードコイル）、溶融亜鉛めっきコイルを含む年間総生産量210万トンの工場として設計されています。

CGLは厚さ1～6ミリメートルの熱延鋼板に加えて、厚さ0.5～2.5ミリメートルの冷延鋼板を最大幅1,630ミリメートルまで処理可能で、納入される設備には最大圧延荷重1,200トンのスキンパスミルとテンションレベラーも装備されています。CPLは板厚1～8ミリメートルの鋼板を幅1,630ミリメートルまで処理可能で、サイドトリマー、スクラップチョッパー、最大圧延荷重1,500トンのスキンパスミルが各1基設置されています。

当社は CGL と CPL の機械、電気設備のエンジニアリングおよび機器納入、さらに低電圧システム、モーター、VVVR ドライブ、モーター制御センター（MCC）、計測機器、ベーシックオートメーション（レベル1）およびプロセスオートメーション（レベル2）を含む電気・自動化システムのエンジニアリングおよび納入、そして据付、試運転指導を担当しています。なおオートメーションについては、将来的にレベル3システムにも対応できるインターフェースも準備される予定です。本工事で顧客である承徳鋼鉄は、中電圧システムと開閉装置付き変圧器の供給と据付を担当します。



プライメタルズテクノロジーズ製の連続垂鉛めっきライン（CGL）

他言語（英語・ドイツ語・中国語・ポルトガル語・ロシア語）による（プレスリリース及び資料は、以下の URL よりご覧になれます。 www.primetals.com/press/

報道関係お問い合わせ先:

プライメタルズ テクノロジーズ ジャパン株式会社 社長室（広報担当：山下）
〒733-8553 広島市西区観音新町四丁目 6-22 三菱重工業（株）広島製作所内
電話 082-291-2181

プライメタルズ テクノロジーズ 公式ツイッター: twitter.com/primetals

プライメタルズ テクノロジーズ (Primetals Technologies, Limited)は本社を英国・ロンドンに置き、金属鉄鋼産業における、エンジニアリング及びプラント建設全般の世界的リーダーかつライフサイクル・パートナーです。当社は電機、オートメーション及び環境の総合ソリューションを含めた技術、製品、サービスの一式を提供しており、鉄鋼のあらゆる分野を網羅するだけでなく、非鉄分野でも最新の圧延ソリューションをお届けします。当社は、株式会社日立製作所ならびに株式会社 IHI が資本参加している三菱日立製鉄機械と、シーメンス・グループのシーメンス VAI メタルズテクノロジーズ社の統合により発足した三菱重工のグループ会社です。出資比率は三菱日立製鉄機械が 51%、シーメンスが 49%です。従業員数は全世界で約 7,000 人。詳しくは、下記 URL より当社公式ウェブサイトをご覧ください。

公式ウェブサイト: www.primetals.com